

# 音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 2年次

ドラム総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
演習	共同演習Ⅱ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅱ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	68	2	4
実習	作品制作基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作応用Ⅱ	68	2	2
合計		888	26	38

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成 & 提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	分野別ゼミⅡ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
授業概要	<p>主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。</p>				
到達目標	<p>オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。 またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 4～7回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 8～10回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 11～13回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生まれる。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 14～17回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 21～24回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 25～27回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 28～30回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 31～34回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	インプロヴィゼーション理論Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
授業概要	<p>アンサンブルを中心に、様々なジャンル(楽曲)を学び、ギター、ベース、ドラムそれぞれのソロパートや、幅広く且つセッションなどに役立つスキルや知識等のプレイアビリティを身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲のリズムパターンを習得する</li> <li>・指定の楽曲でソロパートを取る</li> <li>・アイコンタクト等、他パートとの共存を養う</li> <li>・楽曲を理解し、アンサンブル中他パートの意思疎通など、楽曲中の楽しみ方を知る。</li> <li>・かみや迷いのないプレイで、それぞれのプレイアビリティ向上を狙う。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	<p>【課題曲1-Pick up the pieces】楽曲中のソロパートへ向けて4分音符のパルスを感じながらソロの練習。アンサンブルでは、各パートとのリズムの絡み方を知り、共存していく。</p> <p>【課題曲2-Run For Cover】アンサンブルでは、前回の内容や注意点を復習しプレイアビリティに生かす。</p>
【前期】 4～7回目	<p>【課題曲2-Run For Cover】ソロパートで自分を見失わない様プレイする。</p> <p>【課題曲3-Cissy Strut】ギターとベースのユニゾンに対して分析したリズムパターンが生きる様にプレイ。ソロパートでは、ギターとベースの固定フレーズの中でソロを行う。</p>
【前期】 8～10回目	<p>【課題曲4-Pieces】アンサンブルでは、早めのBPMに対し、焦りのない16分音符を演奏する。</p> <p>【課題曲5-The Chicken】アンサンブルでは、各パートのプレイアビリティを引き出し、且つ楽曲にとらわれないプレイをする。</p>
【前期】 11～13回目	<p>【課題曲5-The Chicken】セッション能力の向上を図る。【ライブウィーク】ライブホールでのパフォーマンス、ステージングを第一に思いっきりプレイする。【テストレビュー】テスト前の予習と復習。【課題曲6-Suuny】テーマを基準とした楽曲を理解し、パターン、ソロに取り組む。</p>
【前期】 14～17回目	<p>【課題曲6】のブラッシュアップに取り組み、4分のパルス、16分フィールを感じ、グルーヴを追及する。</p> <p>【前期まとめ】</p> <p>■前期試験：課題曲の演奏により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の到達度を確認する。</p>
【後期】 18～20回目	<p>【課題曲7-City Living】構成を理解し、変則的なリズムパターンとグルーヴを掴む。</p> <p>【課題曲8-Lay it Down】構成、パターン、グルーヴを掴む。</p>
【後期】 21～24回目	<p>【課題曲9-Georgy Porguy】ベースとのコンビネーション、グルーヴ、テンポキープに注意して演奏する。</p> <p>【課題曲10-Crazy Race】軽快な楽曲を演奏する為に、一切迷いのないビート、キレのある演奏を目指す。</p>
【後期】 25～27回目	<p>【課題曲11-Just To of Us】メロディを支え、グルーヴがブレない様演奏する。</p> <p>【課題曲12-Led Boots】ギターを引き立たせる事を心がけ、しっかりパルスを感じ、テンポキープする。</p> <p>【後期まとめ】後期課題曲を元に、ブラッシュアップしたい内容を抽出しトライ、再確認する。</p>
【後期】 28～30回目	<p>【課題曲12】リズムパターンや細部の再確認。個々の能力に応じてアレンジして演奏する。</p> <p>【テストレビュー】予習と復習。</p>
【後期】 31～34回目	<p>【課題曲13-Just Funky】ベースラインをしっかりと聴き、バズドラとの絡みを大事にする。アンサンブル中の演奏は、起伏をつけ、表情のある演奏をすること。【年間まとめ】</p> <p>■後期試験：課題曲の演奏により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の到達度を確認する。</p>
評価方法	<p>S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。</p> <p>学期末に実施する試験により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の5項目の到達度を総合的に評価する。</p>
学生へのメッセージ	<p>アンサンブルの中で大事なものは、構成や細かなキメごとと他に、パフォーマンスやメンバーとのアイコンタクトなどがあります。より演奏を楽しむには欠かせない事なので、失敗を恐れず、常に全力で望む事が大切です。タイムキープも大事なもので、しっかりと準備した上でトライしましょう。</p>
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	グループアンサンブル実習の内容を深く掘り下げ、リズムの歴史を実際の楽曲を聴きながら体系を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループアンサンブル実習の内容を理解しやすくするねらい。</li> <li>・グループを意識した内容を色々なアプローチでトライしてグループアンサンブル実習につなげる。</li> <li>・色々なタイプのジャンル、リズムの中でまずはドラムからグループする事を習得する。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ベタの16分音符をキッチリ合わせる/Funkグループ習得/シャッフルのリズムを学ぶ
【前期】 4～7回目	レゲエのリズムの習得/スウィングのグループを学ぶ/ハネたリズムからベタなリズムへのスイッチ
【前期】 8～10回目	ユニゾンで進むフレーズの一体感/全体でドライブ感を出す/スウィングのグループの中でのユニゾンを体感する
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期内容のまとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	変拍子のアンサンブルを学ぶ/Funkのグループをアンサンブルで学ぶ/3拍子のアンサンブルを学ぶ
【後期】 21～24回目	16分音符で進むユニゾンを学ぶ/16分音符の2、4個目を意識したリズムでアンサンブルする/ウラ拍を全体で意識してアンサンブルする
【後期】 25～27回目	全体がドライブするグループを習得する/メロディーラインを歌いながらアンサンブルしてみる/ダイナミクスをしっかりつけたアンサンブルを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期内容のまとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「グループアンサンブル実習」は他のパート(ギター、ベース)との共同授業なので、この授業を通してアンサンブルに入る前に毎週の課題曲へのグループにトライします。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーターⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン</li> <li>・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> </ul>				
授業概要	<p>ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グルーヴの捉え方を学びます。 また、変拍子の楽曲を演奏する為に必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムのノリを体得する。</li> <li>・ビート、フィルインの発想力を培う。</li> <li>・カウントを身体の中に宿す。</li> <li>・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。</li> <li>・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	7/8拍子、スネアでリズム打ちするトレーニング+カウンティングして拍子のブロック割り
【前期】 4～7回目	7/8拍子、ビートトレーニング+カウンティング練習
【前期】 8～10回目	7/8拍子、ビート+フィルイントレーニング、カウンティング練習
【前期】 11～13回目	3/4、3/8、6/8拍子、スネアでリズム打ち+カウンティングとブロック割り
【前期】 14～17回目	3/4、3/8、6/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習 ■前期試験：課題曲の演奏により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5/4、5/8拍子、スネアリズム打ち+カウンティング練習
【後期】 21～24回目	5/4、5/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習
【後期】 25～27回目	9/8拍子、スネアリズム打ち+カウンティング練習
【後期】 28～30回目	9/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習
【後期】 31～34回目	1～35回目の拍子を使ってドラムレスの音源でドラムアレンジする練習 ■後期試験：課題曲の演奏により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	変拍子の楽曲を1からドラムアレンジする、また既存の楽曲を解釈して演奏できるまでにスムーズなプロセスと二つを身につけます。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	ドラムセット演奏におけるハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称と応用法も覚えながら体系的に学んでいく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習する以外にも、手足への応用やコンビネーションやモーラー奏法による演奏法などを大体系的に学んでもらう。</li> <li>・パワー、リラックス、エンデュアランス、コントロール、アイソレーション等の向上を図る。</li> <li>・ドラマーに必要な基本技術を、より自然でリラックスした方法を通して理解する。</li> <li>・各自の音楽性や表現力に良い影響を与え、各自の個性に合わせて発展していける段階に引き上げる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	モーラー奏法における基本ストロークの流れ、ダウン・ストローク&タップ・ストローク&アップ・ストローク、ウィップ・モーション、グラッドストーン奏法との比較
【前期】 4～7回目	モーラー・トリプレツ、モーラー・フォー・ストローク、身体の使い方のアドバイス① 力の流れについてのディスカッション モーラー式ダブル・ストローク
【前期】 8～10回目	ルーディメンツへの応用、ショート・ロール系、パラデイドル系 ルーディメンタル・スネア・ソロ
【前期】 11～13回目	セットへの応用 身体の使い方のアドバイス② 試験
【前期】 14～17回目	コンビネーション練習 グルーヴについてのディスカッション フット・モーラー スネア・ソロ ■前期試験:課題曲の演奏により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ルーディメンツへの応用 インバーテッド系 4way independence
【後期】 21～24回目	手足のコンビネーション ハイブリッド・ルーディメンツ数種
【後期】 25～27回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 音楽的なタッチ・コントロール(ドラム)楽曲への展開
【後期】 28～30回目	音楽的なタッチ・コントロール(シンバル)楽曲への展開 試験
【後期】 31～34回目	楽曲への展開 実際例を挙げながら まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出しやすい楽器ですが、一方で、なかなか技術的に伸びなかったり、力みが抜けず、疲れやすかったりする人がとても多いです。腱鞘炎や腰痛等、身体を痛めてしまう場合も。レッスンで正確な身体の使い方の知識や練習方法を学ぶと大きく変わるキッカケを掴めます。ドラムセット演奏におけるストレスを軽減し、表現力をより高めるために一緒に勉強しましょう！
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アドバンスドラムⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	一年次に習得したベーシックな要素をより発展させ、最新のドラミングや専門的なジャンルのフレーズを学びます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の流れに沿ったドラミング、サウンドメイキングを知る。</li> <li>・ポピュラーではないが上達のカギとなるリズムパターン、ジャンルを学ぶ。</li> <li>・難解なリズムパターンやフレーズを安定してグルーブできるようにする。</li> <li>・サルサ、ボサノバなど、特有のグルーブを正しく理解し、叩けるようにする。</li> <li>・曲に合ったサウンドを作ることができる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ダブルストローク強化。6Stroke Roll強化。それらを使ったフィルの練習。
【前期】 4～7回目	【課題曲①】FTとBDの16分音符が滑らかにつながるようにする。
【前期】 8～10回目	【課題曲②】ポリリズム系パターン。16の3つ割と4分音符を共存させたグループ練習 ブラジル系ドラミング、パルチダルト練習
【前期】 11～13回目	【課題曲③】32分フィルのゴスペルチョップ的アプローチ
【前期】 14～17回目	32分フィルパターンのより難解なパターン ダブルシャッフル練習 ■前期試験:課題曲の演奏により「BPM/グルーブ/タイム/キットバランス/サウンドメイク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	手足コンビネーション(リニアフレーズ)のフィルイン練習 【課題曲④】HHとRideを同時に使った刻みパターン
【後期】 21～24回目	ポリリズム(ずらし)系パターン、フィルイン
【後期】 25～27回目	引き続きポリリズム系パターン、フィルイン ラテン系ドラミング(サルサ、マンボ、チャチャチャ等)
【後期】 28～30回目	ジャンルに合うサウンドメイキング(チューニング)を学ぶ 音量コントロール(消音)したドラミングでグルーブする練習
【後期】 31～34回目	一年の総復習 ■後期試験:課題曲の演奏により「BPM/グルーブ/タイム/キットバランス/サウンドメイク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「BPM/グルーブ/タイム/キットバランス/サウンドメイク」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽の時代の流れは早く、求められるサウンドは刻一刻と変化していきます。プレイヤーそれぞれが変化に対してアンテナを張って、どんどん吸収していくべきです。この授業では、さまざまな現場を経て必要だと感じた技術と知識を出来る限り伝授しようと思います。
備考	



## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	既存の楽曲を課題曲にして2週にかけてドラム、ギター、ベースで仕上げるリズムに重点を置きながらアンサンブルを成立させるプロセスを学ぶ。				
到達目標	<p>・既存の楽曲からフレージング、アンサンブル、ダイナミクス、グルーヴ感を習得しながら実際のアンサンブルに反映させる。</p> <p>・様々なジャンルの既存楽曲からフレージング、アンサンブル、ダイナミクス、グルーヴ感を学び、生徒のリズム感、フレーズ発想力、アンサンブルスキルを上げる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①、②、③ : ①ベタの16分音符4をキッチリ合わせる ②Funkのグルーヴ習得 ③シャッフルのリズムを学ぶ
【前期】 4～7回目	課題曲④、⑤、⑥ : ④レゲエのリズムの習得 ⑤スウィングのグルーヴを学ぶ ⑥ハネたリズムからベタなリズムへのスイッチ
【前期】 8～10回目	課題曲⑦、⑧ : ⑦ユニゾンで進むフレーズの一体感 ⑧全体でドライブ感を出す
【前期】 11～13回目	課題曲⑨ : ⑨スウィングのグルーヴの中でのユニゾンを体成する
【前期】 14～17回目	前期まとめ/①～⑨までの課題曲のおさらい ■前期試験:課題曲の演奏により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑩、⑪、⑫ : ⑩変拍子のアンサンブルを学ぶ ⑪3拍子のアンサンブルを学ぶ ⑫Funkグルーヴをアンサンブルで学ぶ
【後期】 21～24回目	課題曲⑬、⑭、⑮ : ⑬16分音符で進むユニゾンを学ぶ ⑭ウラ拍を全体で意識してアンサンブルする ⑮16分音符の2、4個目を意識したリズムでアンサンブルする
【後期】 25～27回目	課題曲⑯、⑰ : ⑯全体がドライブするグルーヴを習得する ⑰メロディーラインを歌いながらアンサンブルしてみる
【後期】 28～30回目	課題曲⑱ : ⑱ダイナミクスをしっかりつけたアンサンブルを学ぶ
【後期】 31～34回目	後期まとめ/⑩～⑱までの課題曲のおさらい ■前期試験:課題曲の演奏により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	既在楽曲には沢山のヒントが詰まっています。この授業はそのヒントを紐解いて実際にアンサンブルで他パートと演奏するのにより習得への近道につながります。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARPLED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
授業概要	<p>一年次より技術や応用力が必要な曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レコーディングなどとは違う、ライブならではの演奏を身につける。</li> <li>・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。</li> <li>・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。</li> <li>・演奏以外の面でのパフォーマンスが身に付く。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握、ロックとファンクの要素が混在したグループを理解して演奏する 【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握、ブラッシュワーク練習
【前期】 4～7回目	【課題曲②】スウィープ以外にもさまざまなブラシの使い方を駆使して曲を聴かせる 【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握、BPMをきちんとキープして楽曲をしっかりと聴かせられる
【前期】 8～10回目	【課題曲③】歌の内容をきちんと理解したダイナミクス、パターン、フィルのチョイスができる LWリハーサル
【前期】 11～13回目	【課題曲④】楽曲の構成、フレーズの把握、単純なパターンだが退屈させないグループを作り出す
【前期】 14～17回目	【課題曲④】自由度が高い曲なので少し遊びを入れたりアレンジを加える ■前期試験：課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】楽曲の構成、フレーズの把握 【課題曲⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 21～24回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	【課題曲⑧】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	【課題曲⑨】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	一年総まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一年間ライブ実習の授業を受けてきた皆さんなら、もう基本的なライブパフォーマンスは身に付いてきていると思います。二年次にはそれをさらにブラッシュアップさせるのはもちろん、バンド全体でのパフォーマンス、ライブ前の準備段階のことなども考えていきましょう。そして何より、ライブを楽しみましょう！
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
授業概要	<p>一年次より技術や応用力が必要な曲を使って、ライブスタイル実習Ⅱ同様実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用としてレコーディングなどとは違う、ライブならではの演奏を身につける。</li> <li>・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。</li> <li>・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。</li> <li>・演奏以外の面でのパフォーマンスが身に付く。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握、ロックとファンクの要素が混在したグループを理解して演奏する</li> <li>【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握、ブラッシュワーク練習</li> </ul>
【前期】 4～7回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲②】スウィープ以外にもさまざまなブラシの使い方を駆使して曲を聴かせる</li> <li>【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握、BPMをきちんとキープして楽曲をしっかりと聴かせられる</li> </ul>
【前期】 8～10回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲③】歌の内容をきちんと理解したダイナミクス、パターン、フィルのチョイスができる</li> <li>LWリハーサル</li> </ul>
【前期】 11～13回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲④】楽曲の構成、フレーズの把握、単純なパターンだが退屈させないグループを作り出す</li> </ul>
【前期】 14～17回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲④】ライブ実習Ⅱ①をもとに、自由度が高い曲なので少し遊びを入れたりアレンジを加える</li> <li>■前期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。</li> </ul>
【後期】 18～20回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲⑤】楽曲の構成、フレーズの把握</li> <li>【課題曲⑥】楽曲の構成、フレーズの把握</li> </ul>
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握</li> </ul>
【後期】 25～27回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲⑧】楽曲の構成、フレーズの把握</li> </ul>
【後期】 28～30回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題曲⑨】楽曲の構成、フレーズの把握</li> </ul>
【後期】 31～34回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライブ実習Ⅱ①と同様一年総まとめ</li> <li>■後期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。</li> </ul>
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一年間ライブ実習の授業を受けてきた皆さんなら、もう基本的なライブパフォーマンスは身に付いてきていると思います。二年次にはそれをさらにブラッシュアップさせるのはもちろん、バンド全体でのパフォーマンス、ライブ前の準備段階のことなども考えていきましょう。そして何より、ライブを楽しみましょう！
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。				
到達目標	・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作りに上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを体験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
<b>授業概要</b>					
オリジナルワークⅡ同様、基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いに接続しながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルワークⅡでの内容を更に応用し制作していきます。</li> <li>・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。</li> <li>・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。</li> <li>・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。</li> <li>・チームワーク、協調性を養います。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

# 音楽アーティスト科 ドラムコース 受講科目一覧 2年次

ドラム&クリエイター専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
演習	共同演習Ⅱ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作基礎Ⅱ	68	2	2
実習	作品制作応用Ⅱ	68	2	2
合計		888	26	38

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	分野別ゼミⅡ		授業形態 / 必選	演習	必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
授業概要	主にパフォーマンスアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。				
到達目標	オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーマンスアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 4～7回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 8～10回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 11～13回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生まれる。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 14～17回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 21～24回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 25～27回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 28～30回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 31～34回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	



# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	インプロヴィゼーション理論Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
<b>授業概要</b>					
アンサンブルを中心に、様々なジャンル(楽曲)を学び、ギター、ベース、ドラムそれぞれのソロパートや、幅広く且つセッションなどに役立つスキルや知識等のプレイアビリティを身につける。					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲のリズムパターンを習得する</li> <li>・指定の楽曲でソロパートを取る</li> <li>・アイコンタクト等、他パートとの共存を養う</li> <li>・楽曲を理解し、アンサンブル中他パートの意思疎通など、楽曲中の楽しみ方を知る。</li> <li>・カミヤ迷いのないプレイで、それぞれのプレイアビリティ向上を狙う。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲1-Pick up the pieces】楽曲中のソロパートへ向けて4分音符のパルスを感じながらソロの練習。 アンサンブルでは、各パートとのリズムの絡み方を知り、共存していく。 【課題曲2-Run For Cover】アンサンブルでは、前回の内容や注意点を復習しプレイアビリティに生かす。
【前期】 4～7回目	【課題曲2-Run For Cover】ソロパートで自分を見失わない様プレイする。 【課題曲3-Cissy Strut】ギターとベースのユニゾンに対して分析したリズムパターンが生きる様にプレイ。 ソロパートでは、ギターとベースの固定フレーズの中でソロを行う。
【前期】 8～10回目	【課題曲4-Pieces】アンサンブルでは、早めのBPMに対し、焦りのない16分音符を演奏する。 【課題曲5-The Chicken】アンサンブルでは、各パートのプレイアビリティを引き出し、且つ楽曲にとらわれないプレイをする。
【前期】 11～13回目	【課題曲5-The Chicken】セッション能力の向上を図る。【ライブウィーク】ライブホールでのパフォーマンス、ステージングを第一に思いっきりプレイする。【テストレビュー】テスト前の予習と復習。【課題曲6-Suuny】テーマを基準とした楽曲を理解し、パターン、ソロに取り組む。
【前期】 14～17回目	【課題曲6】のブラッシュアップに取り組み、4分のパルス、16分フィールを感じ、グルーヴを追及する。 【前期まとめ】 ■前期試験：課題曲の演奏により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲7-City Living】構成を理解し、変則的なリズムパターンとグルーヴを掴む。 【課題曲8-Lay it Down】構成、パターン、グルーヴを掴む。
【後期】 21～24回目	【課題曲9-Georgy Porguy】ベースとのコンビネーション、グルーヴ、テンポキープに注意して演奏する。 【課題曲10-Crazy Race】軽快な楽曲を演奏する為に、一切迷いのないビート、キレのある演奏を目指す。
【後期】 25～27回目	【課題曲11-Just To of Us】メロディを支え、グルーヴがブレない様演奏する。 【課題曲12-Led Boots】ギターを引き立たせる事を心がけ、しっかりパルスを感じ、テンポキープする。 【後期まとめ】後期課題曲を元に、ブラッシュアップしたい内容を抽出しトライ、再確認する。
【後期】 28～30回目	【課題曲12】リズムパターンや細部の再確認。個々の能力に応じてアレンジして演奏する。 【テストレビュー】予習と復習。
【後期】 31～34回目	【課題曲13-Just Funky】ベースラインをしっかりと聴き、バスドラとの絡みを大事にする。アンサンブル中の演奏は、起伏をつけ、表情のある演奏をすること。【年間まとめ】 ■後期試験：課題曲の演奏により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「技術力/タイム感 /アンサンブル能力/パフォーマンス/表情(音)」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルの中で大事なものは、構成や細かなキメごと他に、パフォーマンスやメンバーとのアイコンタクトなどがあります。より演奏を楽しむには欠かせない事なので、失敗を恐れず、常に全力で望む事が大切です。タイムキープも大事なので、しっかりと準備した上でトライしましょう。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	グループアンサンブル実習の内容を深く掘り下げ、リズムの歴史を実際の楽曲を聴きながら体系を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループアンサンブル実習の内容を理解しやすくするねらい。</li> <li>・グループを意識した内容を色々なアプローチでトライしてグループアンサンブル実習につなげる。</li> <li>・色々なタイプのジャンル、リズムの中でまずはドラムからグループする事を習得する。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ベタの16分音符をキッチリ合わせる/Funkグループ習得/シャッフルのリズムを学ぶ
【前期】 4～7回目	レゲエのリズムの習得/スウィングのグループを学ぶ/ハネたリズムからベタなリズムへのスイッチ
【前期】 8～10回目	ユニゾンで進むフレーズの一体感/全体でドライブ感を出す/スウィングのグループの中でのユニゾンを体感する
【前期】 11～13回目	ライブウィーク/テストレビュー/前期テスト
【前期】 14～17回目	前期内容のまとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	変拍子のアンサンブルを学ぶ/Funkのグループをアンサンブルで学ぶ/3拍子のアンサンブルを学ぶ
【後期】 21～24回目	16分音符で進むユニゾンを学ぶ/16分音符の2、4個目を意識したリズムでアンサンブルする/ウラ拍を全体で意識してアンサンブルする
【後期】 25～27回目	全体がドライブするグループを習得する/メロディーラインを歌いながらアンサンブルしてみる/ダイナミクスをしっかりつけたアンサンブルを学ぶ
【後期】 28～30回目	ライブウィーク/テストレビュー/後期テスト
【後期】 31～34回目	後期内容のまとめ ■前期試験:課題曲の演奏により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の読解力 / 解釈スピード / 正確性」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	セット科目である「グループアンサンブル実習」は他のパート(ギター、ベース)との共同授業なので、この授業を通してアンサンブルに入る前に毎週の課題曲へのグループにトライします。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループ&オドメーターⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立恵比寿中学、戸渡 陽太、FREAK、Big horns bee等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン</li> <li>・私立恵比寿中学「アルバム/MUSIC」の楽曲「踊るロクデナシ」、Mega shinnosuke「アルバム/HONNE」レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> </ul>				
授業概要					
<p>ドラムを演奏する上でのリズムの感じ方、グルーブの捉え方を学びます。 また、変拍子の楽曲を演奏する為に必要な考え方、ビートやフィルインの構成力を鍛えます。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムのノリを体得する。</li> <li>・ビート、フィルインの発想力を培う。</li> <li>・カウントを身体の中に宿す。</li> <li>・リズムを点ではなく円で感じられるようにする。</li> <li>・変拍子の楽曲をアレンジして叩けるようにする。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	7/8拍子、スネアでリズム打ちするトレーニング+カウンティングして拍子のブロック割り
【前期】 4～7回目	7/8拍子、ビートトレーニング+カウンティング練習
【前期】 8～10回目	7/8拍子、ビート+フィルイントレーニング、カウンティング練習
【前期】 11～13回目	3/4、3/8、6/8拍子、スネアでリズム打ち+カウンティングとブロック割り
【前期】 14～17回目	3/4、3/8、6/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習 ■前期試験：課題曲の演奏により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5/4、5/8拍子、スネアリズム打ち+カウンティング練習
【後期】 21～24回目	5/4、5/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習
【後期】 25～27回目	9/8拍子、スネアリズム打ち+カウンティング練習
【後期】 28～30回目	9/8拍子、ビート+フィルイン+カウンティング練習
【後期】 31～34回目	1～35回目の拍子を使ってドラムレスの音源でドラムアレンジする練習 ■後期試験：課題曲の演奏により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クリックに合っているか / アドリブカ / 解釈スピード」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	変拍子の楽曲を1からドラムアレンジする、また既存の楽曲を解釈して演奏できるまでにスムーズなプロセスと二つを身につけます。
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ブレイングテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ンジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	ドラムセット演奏におけるハンド・テクニックとフット・テクニック全般を、各名称と応用法も覚えながら体系的に学んでいく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スネア、ドラム、ルーディメンツを中心に学習する以外にも、手足への応用やコンビネーションやモーラー奏法による演奏法などを大系的に学んでもらう。</li> <li>・パワー、リラックス、エンデュアランス、コントロール、アイソレーション等の向上を図る。</li> <li>・ドラマーに必要な基本技術を、より自然でリラックスした方法を通して理解する。</li> <li>・各自の音楽性や表現力に良い影響を与え、各自の個性に合わせて発展していける段階に引き上げる。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	モーラー奏法における基本ストロークの流れ、ダウン・ストローク&タップ・ストローク&アップ・ストローク、ウィップ・モーション、グラッドストーン奏法との比較
【前期】 4～7回目	モーラー・トリプレツ、モーラー・フォー・ストローク、身体の使い方のアドバイス① カの流れについてのディスカッション モーラー式ダブル・ストローク
【前期】 8～10回目	ルーディメンツへの応用、ショート・ロール系、パラディドル系 ルーディメンタル・スネア・ソロ
【前期】 11～13回目	セットへの応用 身体の使い方のアドバイス② 試験
【前期】 14～17回目	コンビネーション練習 グルーヴについてのディスカッション フット・モーラー スネア・ソロ ■前期試験:課題曲の演奏により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ルーディメンツへの応用 インパーテッド系 4way independence
【後期】 21～24回目	手足のコンビネーション ハイブリッド・ルーディメンツ数種
【後期】 25～27回目	ルーディメンタル・スネア・ソロ②～③ 音楽的なタッチ・コントロール(ドラム)楽曲への展開
【後期】 28～30回目	音楽的なタッチ・コントロール(シンバル)楽曲への展開 試験
【後期】 31～34回目	楽曲への展開 実際例を挙げながら まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「モーラー・ストロークの原則 / 各ルーディメンツへの応用度 / シングル、ダブル、フラムなどの使い分け / 音色のコントロール」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ドラムスは、とても楽しく様々な音が出しやすい楽器ですが、一方で、なかなか技術的に伸びなかったり、カミが抜けず、疲れやすかったりする人がとても多いです。腱鞘炎や腰痛等、身体を痛めてしまう場合も。レッスンで正確な身体の使い方の知識や練習方法を学ぶと大きく変わるキッカケを掴めます。ドラムセット演奏におけるストレスを軽減し、表現力をより高めるために一緒に勉強しましょう！
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	・鈴木茂、中西圭三、有山じゅんじ、木村光輝、田口悌二、浅野孝巳(ゴダイゴ)、森本太郎(ザ・タイガース)、ワガン・ジャイローズ、奥本亮、園田亮等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン				
授業概要	既存の楽曲を課題曲にして2週にかけてドラム、ギター、ベースで仕上げるリズムに重点を置きながらアンサンブルを成立させるプロセスを学ぶ。				
到達目標	<p>・既存の楽曲からフレージング、アンサンブル、ダイナミクス、グルーヴ感を習得しながら実際のアンサンブルに反映させる。</p> <p>・様々なジャンルの既存楽曲からフレージング、アンサンブル、ダイナミクス、グルーヴ感を学び、生徒のリズム感、フレーズ発想力、アンサンブルスキルを上げる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	課題曲①、②、③ : ①ベタの16分音符4をキッチリ合わせる ②Funkのグルーヴ習得 ③シャッフルのリズムを学ぶ
【前期】 4～7回目	課題曲④、⑤、⑥ : ④レゲエのリズムの習得 ⑤スウィングのグルーヴを学ぶ ⑥ハネたリズムからベタなリズムへのスイッチ
【前期】 8～10回目	課題曲⑦、⑧ : ⑦ユニゾンで進むフレーズの一体感 ⑧全体でドライブ感を出す
【前期】 11～13回目	課題曲⑨ : ⑨スウィングのグルーヴの中でのユニゾンを体成する
【前期】 14～17回目	前期まとめ/①～⑨までの課題曲のおさらい ■前期試験:課題曲の演奏により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	課題曲⑩、⑪、⑫ : ⑩変拍子のアンサンブルを学ぶ ⑪3拍子のアンサンブルを学ぶ ⑫Funkグルーヴをアンサンブルで学ぶ
【後期】 21～24回目	課題曲⑬、⑭、⑮ : ⑬16分音符で進むユニゾンを学ぶ ⑭ウラ拍を全体で意識してアンサンブルする ⑮16分音符の2、4個目を意識したリズムでアンサンブルする
【後期】 25～27回目	課題曲⑯、⑰ : ⑯全体がドライブするグルーヴを習得する ⑰メロディーラインを歌いながらアンサンブルしてみる
【後期】 28～30回目	課題曲⑱ : ⑱ダイナミクスをしっかりつけたアンサンブルを学ぶ
【後期】 31～34回目	後期まとめ/⑩～⑱までの課題曲のおさらい ■前期試験:課題曲の演奏により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズムキープ / 原曲のフィールの把握 / ダイナミクス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	既存楽曲には沢山のヒントが詰まっています。この授業はそのヒントを紐解いて実際にアンサンブルで他パートと演奏するのにより習得への近道につながります。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	一年次より技術や応用力が必要な曲を使って、実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レコーディングなどとは違う、ライブならではの演奏を身につける。</li> <li>・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。</li> <li>・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。</li> <li>・演奏以外の面でのパフォーマンスが身に付く。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握、ロックとファンクの要素が混在したグループを理解して演奏する 【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握、ブラシワーク練習
【前期】 4～7回目	【課題曲②】スウィープ以外にもさまざまなブラシの使い方を駆使して曲を聴かせる 【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握、BPMをきちんとキープして楽曲をしっかりと聴かせられる
【前期】 8～10回目	【課題曲③】歌の内容をきちんと理解したダイナミクス、パターン、フィルのチョイスができる LWリハーサル
【前期】 11～13回目	【課題曲④】楽曲の構成、フレーズの把握、単純なパターンだが退屈させないグループを作り出す
【前期】 14～17回目	【課題曲④】自由度が高い曲なので少し遊びを入れたりアレンジを加える ■前期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】楽曲の構成、フレーズの把握 【課題曲⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 21～24回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	【課題曲⑧】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	【課題曲⑨】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	一年総まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一年間ライブ実習の授業を受けてきた皆さんなら、もう基本的なライブパフォーマンスは身に付いてきていると思います。二年次にはそれをさらにブラッシュアップさせるのはもちろん、バンド全体でのパフォーマンス、ライブ前の準備段階のことなども考えていきましょう。そして何より、ライブを楽しみましょう！
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学期別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	一年次より技術や応用力が必要な曲を使って、ライブスタイル実習Ⅱ①同様実際のライブ演奏に必要な技術を習得します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用としてレコーディングなどとは違う、ライブならではの演奏を身につける。</li> <li>・実際のライブを想定した動きやパフォーマンスを身につける。</li> <li>・ライブ演奏をすることにおける実践的なアプローチを習得する。</li> <li>・演奏以外の面でのパフォーマンスが身に付く。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【課題曲①】楽曲の構成、フレーズの把握、ロックとファンクの要素が混在したグループを理解して演奏する 【課題曲②】楽曲の構成、フレーズの把握、ブラッシュワーク練習
【前期】 4～7回目	【課題曲②】スウィープ以外にもさまざまなブラシの使い方を駆使して曲を聴かせる 【課題曲③】楽曲の構成、フレーズの把握、BPMをきちんとキープして楽曲をしっかりと聴かせられる
【前期】 8～10回目	【課題曲③】歌の内容をきちんと理解したダイナミクス、パターン、フィルのチョイスができる LWリハーサル
【前期】 11～13回目	【課題曲④】楽曲の構成、フレーズの把握、単純なパターンだが退屈させないグループを作り出す
【前期】 14～17回目	【課題曲④】ライブ実習Ⅱ①をもとに、自由度が高い曲なので少し遊びを入れたりアレンジを加える ■前期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【課題曲⑤】楽曲の構成、フレーズの把握 【課題曲⑥】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 21～24回目	【課題曲⑦】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 25～27回目	【課題曲⑧】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 28～30回目	【課題曲⑨】楽曲の構成、フレーズの把握
【後期】 31～34回目	ライブ実習Ⅱ①と同様一年総まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「楽曲理解度/グループ/タイム感/フレーズセンス/パフォーマンス」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一年間ライブ実習の授業を受けてきた皆さんなら、もう基本的なライブパフォーマンスは身に付いてきていると思います。二年次にはそれをさらにブラッシュアップさせるのはもちろん、バンド全体でのパフォーマンス、ライブ前の準備段階のことなども考えていきましょう。そして何より、ライブを楽しみましょう！
備考	

# 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎 II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	メタルバンド「ANOTHER STREAM」(アナザーストリーム)にてインディーズデビュー。国内外から様々な評価を得つつ2012年に脱退。 2013年よりレコーディングエンジニア・アレンジャーとしてのキャリアを開始し、メジャーアーティストを始め様々なアーティストのレコーディング、編曲などに参加。				
<b>授業概要</b>					
<p>作詞・作曲に必要なアイデアを増やす。メロディー作り。コード進行の構築。リズムの種類に対する理解。作文・ポエムにならないような歌詞作り 生徒自身で作成したオリジナル楽曲に対して編曲をする。編曲における各種楽器の理解、logicX及びPC(Mac)操作</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が作曲する作品の多くは偏ったジャンル、かつ狭い範囲で制作することが殆どである為、生徒が持ち合わせていない作詞作曲に関する知識、情報、テクニックを紹介し、センスの幅を広げてもらうこと。</li> <li>・生徒本人が持つ個性を自覚し、その個性を武器として、卒業後もその個性を追求し、アーティストとして作品作りが出来るようにする。</li> <li>・オリジナル曲をボイスメモ引き語りで完結させず、logicX上で管理し、自身のプロモーション活動及びアレンジャー委託用のヘッドアレンジを出来るようにする。</li> <li>・logicXの操作習得、自身オリジナル曲のファイル管理、各楽器の役割アプローチを理解する。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ミディアムテンポで楽曲作成：イーブンやシャッフルの意識を再確認してもらう。作詞にて、景色と気持ちのバランス、慣用句の使いかた、固有名詞を入れるポイント
【前期】 4～7回目	アップテンポで楽曲制作：ハイテンポにおけるコードの適切な配置、ブレイクやキメなどのリズムの仕掛け作り。歌詞、ワードに対するポジティブとネガティブの切り分け、スピード感のある言葉とは。
【前期】 8～10回目	スローテンポ(バラード)で楽曲作成：バラードにおけるストリングスの使い方。1/16・1/32のクオンタイズの切り替え。6/8拍子で楽曲作成：スロー3連。logicXにて、テンポチェンジ、拍子チェンジのやり方
【前期】 11～13回目	マイナーkeyで楽曲制作：メジャースケール、マイナースケールのおさらい。ハーモニックマイナー、メロディックマイナー、マイナーペンタトニック。II m→Vの実践的な使い方。
【前期】 14～17回目	シャッフルビートで楽曲制作：8ビートシャッフル16ビートシャッフルの実践的な違い。I、△IV△7、VI mのトニックに関する解説と実践方法。「ラブソングのどこを切り取るのか？」について考えてみる ■前期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	ロックンロールで楽曲制作：ロックンロールの定義についての研究。ロックとロックンロールの違いについて、ギターとピアノのロックンロールアプローチの解説。歌詞：ライミングについて。母音を合わせるタイミングについて
【後期】 21～24回目	R&Bで楽曲制作：昨今のリズムアンドブルースについて、踊れるビートとはなにか？ベースとキックのシンクロについて再認識。音価、ノートOFFのコントロール。
【後期】 25～27回目	ボサノヴァで楽曲制作：ボサノヴァの文化について、J-Popにおけるボサノヴァの使われ方。ボサノヴァとサンバの違いについて理解する。モンツウノ奏法について。ウイスパーボイスなど、楽曲に合わせた発声を研究する。
【後期】 28～30回目	レゲエで楽曲制作：レゲエの歴史について。黒レゲエ、白レゲエの違い。裏拍、バックビートの使い方。ギターの音色について、クリーン、クランチ、オーバードライブ、ディストーション、ファズ。
【後期】 31～34回目	jazzで楽曲制作：ジャズの種類、ビックバンド、スタンダード、モダン、ビバップなど。スイングの概念について。モードスケール・オルタードスケールの実践的な使い方。セカンダリドミナントの実践的な使い方。 ■後期試験：楽曲の制作により「作曲クオリティ/編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「制作楽曲のクオリティ/制作意欲」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	とにかく作曲の数をこなすこと(アウトプット)も大切ですが、インプットも大切です。特にリファレンス曲がリファレンス曲たる所以を、しっかり分析することも行ってください。自身の楽曲を客観的に捉えられるようになること。主観も大切ですが、特に客観性の強化、世の中の感性と自身の感性との誤差を客観的に捉えられようになることが商業作家として重要な事項の一つになると思います。そのあたりを念頭にオリジナル曲作りに励んでください。
備考	



## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オリジナルワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、 メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン ・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作				
授業概要	基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。</li> <li>・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。</li> <li>・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。</li> <li>・チームワーク、協調性を養います。</li> </ul>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験: 作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作り上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

## 専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワークⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原さくら、磯貝サイモン、青木カレン、Teatro Raffinato、是方博邦、鈴木よしひさ等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン</li> <li>・SHARP「LED AQUOS」、ワンダーランド、薩摩酒造、華味鳥等のCM音源制作</li> </ul>				
<b>授業概要</b>					
<p>オリジナルワークⅡ同様、基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いに接続しながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。</p>					
<b>到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルワークⅡでの内容を更に応用し制作していきます。</li> <li>・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。</li> <li>・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。</li> <li>・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。</li> <li>・チームワーク、協調性を養います。</li> </ul>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 4～7回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 8～10回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 11～13回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 14～17回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 21～24回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 25～27回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 28～30回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 31～34回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作るプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを体験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	